

信州の生活科・総合的な学習の時間 実践誌

ふりさとの大地

令和6年1月



27

信濃教育会



しゅうとと

うしと ころしよ

一年 ながざわ しゅしと

おつきいね

かっこいいね

ほくがじつとみてたから

はずかしいんだね

学びの主人公

「今年の研究では、対象への見方や考え方が変わっていくことが、対象との距離を縮めている姿ととらえた。だれがとらえたか。教師がとらえたんだ。できたらそれを子どもたちが自覚する、そういう学習にしてほしいんだ。評価というのは究極的には自己評価しかないんだという。だから、自己評価力をつけていくことが大事だと思う。自己評価というのは、結局は自己内対話でしょ。自分の学びを意味あるものとしてとらえ得るかどうかが、それを子どもたちが自覚できるようなことを考えていったら、本校の研究は一步進めるんじゃないの。」

十年以上も前のことですが、三月の終わりに校長先生と研究スタッフとの懇談の機会をもつことになりました。校長先生から出された様々な課題について研究スタッフと二時間以上も語り合いました。これまでの囚われを捨てて自由に意見交換できたこの時間が、とても有意義だったと思います。冒頭にあるのは、その最後に校長先生が話された言葉です。

これまで授業研究を通して「子どもはどのように学んでいるのか」を探ってきたつもりでした。しかし、実際は、教師側に軸足を置いて「子どもをどうとらえるか」と考えていたことに、その時初めて気づかされました。そもそも学びは子ども自身のもの。学びの主人公は子どもです。子どもの中に培われた資質・能力は、この子の経験が支えとなり、この子にとって固有の意味をもっています。子どもを外から見てもその子の学びを想像し、それを積み重ねながら次なる一步を予想し洞察していくことは、私たち教師の大切な仕事です。そこに止まらず、「子ども自身が自らの学びをどのように自覚しているのか」を少しでもつかむことができるとしたら、より一層子どもの内なる世界に近づけるのではないかと思うのです。

『ふるさとの大地』編集委員会では、平成二十六年に生活科・総合的な学習で培われた資質・能力がどのように自覚されているのかをつかむために、社会人の方へのインタビューを実施しました。何年も前に経験した出来事をまるで昨日のことのように語り続けられる姿に圧倒されました。ご自身の言葉で、自らのいきさつを語られていることそれ自体が、その方に培われた資質・能力。それらは、一律なものではなく一般化されたものでもなく、一人一人固有で特異なものであるからこそ、今も、そして未来にも生きて働く力となるのだろうと感じました。詳しくは『ふるさとの大地』十八号をご覧ください。

この企画はシリーズ化し、今年で十回目を迎えました。シリーズの締めくくりとして、子どもたちのところに生活科・総合的な学習を経験し、現在県内の小学校で活躍している四名の先生方へのインタビューを実施しました。お読みいただくと同稿の中に司会者が登場しないことに気づかれると思います。正直なことを申し上げると、司会者が出る幕がなかったということです。四名の先生方が語られたことを受け止め、その方々の中に培われた資質・能力に思いを馳せていただけるとありがたいと思います。そのことで、学びの主人公である子どもの内なる世界への限りない探究心を、改めてご自身の中に感じとっていただければ幸いです。

テーマ 根っことなるもの

学びの主人公

『ふるさとの大地』編集委員会委員長 馬淵勝己 …… 1

● 特集

座談会 生活科・総合的な学習と学力（シリーズ⑩ 最終回）

生活科・総合的な学習の時間と私

～根っことなるもの～ …… 4

● 実践事例 & コラム

よいさっ！ ぼくたちの御柱祭（2年）

諏訪市立上諏訪小学校 牛山あゆみ …… 12

コラム ブペルと35人の物語 by 劇団「ハナビシソウ」（6年）

飯田市立上郷小学校 村澤健博 …… 22

自分たちで活動をつくっていく姿をめざして～地域探検、棚田プロジェクトを通して～（3年）

上田市立豊殿小学校 塩原講平 …… 24

コラム 150年の歴史、未来へつなぐ～岩村田を知って考える～（4年）

佐久市立岩村田小学校 小澤亜美 …… 34

三年二部、自分たちのお祭りをしたい！～地域伝統の祭りから願いをもった子どもたち～（3年）

塩尻市立塩尻東小学校 大越みずほ …… 36

コラム 地域を笑顔に！「松本一本ねぎ」～栽培活動から販売活動を通して～（6年）

松本市立菅野小学校 高橋岳 …… 46

二年一組のスマイルキラキラまつり（2年）

長野市立昭和小学校 半崎花奈子 …… 48

コラム うさぎ大作戦 ～相手を思いながら自分たちの願いを実現する子どもたち～（2年）

中野市立平野小学校 渋川里子 …… 58

◆ 実践ライブラリー …… 60

◆ ブロック会だより …… 62

子どもの風景

島田彩羽（千曲市立東小学校2年）／大槻紗世（箕輪町立箕輪北小学校4年）／
坪井紗英（木祖村立木祖小学校2年）／なかざわ しゅうと（長野市立芋井小学校1年）

表紙題字：市澤静山（信州大学名誉教授）

表紙写真：上田市立長小学校

裏表紙写真：長野市立豊栄小学校

先生のふるさと

今年、地域のお祭りのお囃子に参加するという先生がいました。「今の場所に住んで数年なのですが、せっかくだから、地域のことに参加してみようと思ったんです」と話していました。

しばらくたったころ「太鼓をやっています。でも、ちょっと難しいんです。どこで繰り返すのか、どこで終わりになるのか、周りのみなさんは、先輩から後輩へ伝わっているからわかるんです。私も、教えてもらいながらやっています。覚えたいと思います」と、太鼓をたたき手つきをしながら話していました。

お祭りの日、この先生は、太鼓をたたいて神社に奉納したそうです。翌日「何とか、やりきることができました。地域の人とも知り合いになり、それから、私の子どもが見に来ていて『かっこよかったよ』って言ってましてね」とにっこりしていました。

お祭りの様子を話す先生の、静かな口調と笑顔がすてきでした。今、住んでいるところが、その先生とご家族にとっての、新しい「ふるさと」になっていくことでしょう。

『ふるさとの大地』編集委員会副委員長 清水令子

実践ライブラリー

県内各地の先生方の実践を資料として収集し、その一部を掲載いたしました。

活用をご希望の方は、信濃教育会教科用図書研究部にお問い合わせください。

過去の実践については、信濃教育会ホームページをご覧ください。

信濃教育会教科用図書研究部 TEL 026-232-5201 Fax026-232-7132
信濃教育会 HP <https://shinkyu.or.jp>



■生活科

No	題材名	実践者・学年	概要
1	さくらちゃんとのくらし	細野 陸 (佐久市立佐久平浅間小学校) 1年	「(ヤギの) さくらちゃんがうれしくなる生活」に目を向けて、当番活動や接し方について自分なりに考えたり、友達と考え合ったりすることを通して、さくらちゃんとのよりよい生活に向けて、工夫を重ね、協力する気持ちを高めていく実践です。
2	すごいぞ！ うらやま～あそぼ～	庄司麻希子 (上田市立東塩田小学校) 1年	学校の「うら山」に落ちているものを利用して、遊んだり、遊びに使う物を工夫して作ったりして、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなと楽しく遊ぶ実践です。
3	大豆マスターになろう	横井 杏香 (岡谷市立川岸小学校) 2年	自分たちで調べた調理方法をもとに初めて作った豆腐を試食した子どもたちが、でき上がった豆腐を見たりさわったり味わったりしながら、感じたことを伝え合い、次の豆腐作りへの意欲を高めていく実践です。
4	原村ハッピー地図をつくらう	小椋大地 (原村立原小学校) 2年	農家さん探検の活動を通して、農家さんの畑を調査し、おすすめポイントをワークシートにまとめる場面で、取材した写真やメモ、実際に農家さんに質問したり作物を手でさわったりしながら、だれに、どんなところをおすすめしたいのか考えまとめる実践です。
5	学校の周りの草木を染めてみよう ～秋～	森田志歩 (駒ヶ根市立赤穂南小学校) 2年	草木染めに興味をもった子どもたちが、草花や実を集めながら自然に親しみ、たたき染めや煮染めを楽しんでいく実践です。
6	もっと大すき 町たんけん	古田麻衣 (飯田市立上郷小学校) 2年	地区のパン屋について調べ、他学級の友達に伝えたいことを決めた子どもたちが、友達と話し合ったりこれまでの発表体験を振り返って活かしたりする実践です。
7	ぼく、わたしのかえるびいち	星野咲月 (生坂村立生坂小学校) 1年	カエルの飼育や遊び場作りをしたいと願った子どもたちは、カエルの生態や暮らしに関心をもち、調べていきます。「カエルのために」という意識を大切に、友達とかかわりながら「かえるびいち」を作っていく実践です。
8	あきまつりをしよう	桜井直子 (長野市立山王小学校) 1年	自分が作っている「あきまつり」のお店や遊びをもっと楽しくしたいと願っている子どもたちが、みんなが楽しめるように、自分のお店や遊びを工夫していく実践です。

■総合的な学習の時間

No	題材名	実践者・学年	概要
1	伝えたい！ 私たちの岩村田商店街	小宮山翔平 (佐久市立岩村田小学校) 4年	地元の岩村田商店街の「よさ」を調べ伝える活動を通して、商店街やお店の「よさ」や人々の「思い」に気づき、商店街の活性化について自分でできることに取り組む実践です。
2	中庭と生きる	佐藤利斗 (上田市立東小学校) 5年	学校みんなの願いを取り入れた中庭にするために、グループで考えを整理し、聞きたい相手や内容を共有しながら、だれにどのようなことを聞けばよいか考えていく実践です。
3	わたしたちの食生活と米作り	宮島志保美 (岡谷市立岡谷田中小学校) 5年	学校の給食や身近なあやめ川的环境に課題を見つけた子どもたちが、調査結果をもとに仲間と語り合いながら、自分たちの毎日の「食」と向き合っていく実践です。
4	地域の人に喜ばれる活動をしよう	橋本真平 (原村立原小学校) 4年	保育園児と交流を重ねてきた児童が、次は園児を小学校に招待して交流をしたいと願い、年中さんが楽しめるような遊びを考え、共に楽しむ実践です。
5	『それ、あおぞらにできます』プロジェクト	森本千優 (宮田村立宮田小学校) 5年	SDGsを意識しながら、児童がリサイクルポイントを手がかりとして、使う相手のことを考えて製品を製作する実践です。
6	一人一人の願いを形に	伊藤昭典 (長野市立茅井小学校) 3～6年	異年齢11人の子どもたちが、一人一人の願いに基づいてテーマを決め、探究したり友達と学び合ったりする実践です。
7	わたしの願いの大根を収穫しよう	古澤 健 (長野市立大岡小学校) 全校	こだわりをもって大根の世話をしてきた子どもたちが、地域の人々など自分たちを支えてくれる存在に気づきながら、こだわりの大根をどうしていくか考えていく実践です。
8	地域に眠る8mmフィルムを使って、過去・現在・未来をつなぐ映画をつくらう	沼尾浩輝 (松本市立梓川小学校) 5年	地域に眠る映像をもとに、当時の生活音の再現になるように子どもたちが考え、調査をしながら、過去・現在・未来をつなぐ映画を作る実践です。
1	原村学	平塚広司 (原村立原中学校) 全校	1年「原村を知る」、2年「原村で学ぶ」、3年「原村をPRしよう・原中ワインをつくらう・ソーセージをつくらう・人と住・平和学習」と、自らのテーマのもと、友と協働しながら、探究的に学びを深める実践です。
2	ふるさと再発見の旅	月岡純平 (飯田市立竜東中学校) 1年	地域の材との出会いから、地域の魅力を思考ツールを使いながら生徒が整理していく中で、地域活性化のために、自分たちにできることを考える実践です。
3	災害から命を守ろう	田口浩一郎、小林勝俊 有賀理絵 (木曾町立木曾町中学校) 2年	「災害が起こった時、私たちにできることは何だろう」を単元テーマとし、災害が発生した時、「マイ・タイムライン」を作成し自らの命を守ろうとするとともに、災害発生時、自分たちのできることは何かを考える実践です。
4	知ろう！見つけよう！自分の可能性とこれからの道～Society5.0の世界で働く時に必要な力はなんだろう～	高坂奈央、平林和也 (松川村立松川中学校) 2年	職場体験学習や調査活動など仕事に取り組む人々とかかわる活動を通して、働くことの意義を自分とのかかわりで考えながら、将来に向けて今の自分が身に付けるべき力や自分のやるべき役割は何かを追究していく実践です。
5	私がおすすめる坂城町キラリアップを作ろう	田中貴之 (坂城町立坂城中学校) 1年	坂城町の魅力が伝わる観光コースを友と相談したり、専門の観光業者からアドバイスをいただいたりしながら、坂城町の魅力が伝わるキラリ観光コースを作成する実践です。
6	いのちを未来につなぐ	池森 潤 (須坂市立東中学校) 全校	「いのちをつなげるとはどういうことか」という問いに向き合い、身のまわりのひと・こと・ものに関する探究的な学習を行い、身近な限りある資源を守り、活かしていくための解決に向けて取り組む実践です。
7	草津町との比較を通して、山ノ内を今よりも魅力ある町にするには	中村有希、他2学年職員 (山ノ内町立山ノ内中学校) 2年	山ノ内町と隣接し、類似した自然環境をもつ草津町について調べた子どもたちが、山ノ内町をより魅力ある町にするための提案を考えていく実践です。
8	20年後わたし達はどのように働くのだろうか？	影山雄基 (松本市立高綱中学校) 2年	「20年後、わたし達はどのように働くのだろうか？」と問いをもった生徒たちが、「身近な地域の方の働く上での困りごと」から、自分の課題を解決するために動き出す実践です。